

巨大地震警戒の臨時情報でも四電は原発運転？

原発事故は被害甚大で回復不能
運転継続などあり得ない！

四国電力が、気象庁が発表する南海トラフ地震の「臨時情報（巨大地震警戒）」の場合にも、伊方原発の運転を原則継続する方針であることが報じられました。

伊方原発は、南海トラフ震源域の真上であり、目の前の海底には中央構造線活断層帯があり、そもそも立地不適の場所にあります。

短時間で連動して巨大地震化も

臨時情報（巨大地震警戒）は、南海トラフの東西いずれかにおいてマグニチュード8以上の地震が発生した場合、過去にそれが連動した事実から警戒を発するものです。きわめて短時間に連動する可能性も排除できません。しかも四国電力は、中央構造線活断層帯

伊方原発をとめる会

790-0003 愛媛県松山市三番町5-2-3ハヤシビル3F
電話 089-948-9990 FAX 089-948-9991
HP <http://www.ikata-tomeru.jp>

南海トラフ地震
臨時情報後も伊方運転
四電「安全性影響なし」
方針

(上)愛媛新聞 2019年12月4日付一面記事及び
(下)気象庁資料 臨時情報(巨大地震警戒)に一部加筆によるコラージュ

○臨時情報(巨大地震警戒)＝半割れ(大規模地震 M8.0 以上)/被害甚大ケース

南海トラフ東側で大規模地震(M8クラス)が発生

※ 1854年の安政東海地震は32時間後に安政南海地震に連動した。(とめる会事務局追記)

西側

への連動など全く考慮していません。驚くべき悠長な認識です。甚大かつ回復不能な被害につながる原発の、「運転継続」などあり得ません。

政府の中央防災会議は「大規模地震発生時に明らかに従業員等に生命に危険が及ぶ場合には、それを回避する措置を実施」するとしています。

確実に住民の命と暮らしを守るために、原則「運転継続」に執着する四電方針の撤回を求めます。

行き先のない使用済みMOX燃料

12月26日からの伊方3号機定期点検では、国内商用原子炉で初めて16体の使用済みMOX燃料が出てきます。危険な「超ウラン元素」が増えた核廃棄物。行き先なく、長期にわたり伊方に留め置かれる可能性大です。

しかも、四国電力は新たにMOX燃料を5体装填して再稼働させる計画です。使用済みMOX燃料をこれ以上作り出してはなりません。